

足寄町

面積：1,408.09km²
 人口：8,765人（平成16年3月現在）
 町の花、木、鳥：エゾムラサキツツジ（花）、
 アカエゾマツ（木）、
 エゾライチョウ（鳥）
 町名の由来：アイヌ語「エシヨロ・ペツ」の沿って
 下る川という意味
 ホームページ：
<http://www.town.ashoro.hokkaido.jp/>



足寄町観光物産協会
 事務局長 五十嵐 健二

町の面積なら日本のどこにも負けません 交通の要として十勝、北網、釧路を結びます

オープンしたての道の駅は、 鉄道の駅でもあります

日本一広い町として知られる足寄町は、十勝の東北部に位置し面積は東京ドームの3万個分、1,408.09km²にもなります。1km²あたりの人口密度は約7人。林業で栄え、広大な大地では多種多様な農産物が生まれ、地元の牛乳を使ったチーズ加工なども積極的に行われています。

足寄町は東に阿寒町や白糠町、南に本別町、西に上士幌町、北は置戸町、陸別町、津別町があり、古くから交通の要として重要な役割を果たしてきました。阿寒方面へ向かう国道241号と、陸別方面へ向かう国道242号が交わる場所には国鉄の時代から駅舎があり、現在は「ふるさと銀河線」の駅を兼ね備えたモダンな「あしよる銀河ホール21」に生まれ変わっています。さらに平成16年8月9日には、道の駅に指定されました。すでに町内には道の駅「足寄湖」があり、道内の自治体で2つの道の駅を持つのは足寄町だけだといいます。



外観

観光バスが止まるようになり、 町外以外の利用者も増加傾向

高さ35.5メートルの展望室がひときわめだつ「あしよる銀河ホール21」は、「ふるさと銀河線」の振興をはかる目的で、ふるさと創生事業の一環として平成6年3月に建物が完成しました。10年の時を経て従来の機能に、道の駅としての魅力がプラスされたわけです。

「道の駅になったことで観光バスが随分止まるようになり、台湾からのお客さんも多いようです。中にはわざわざバスを降りてふるさと銀河線に乗り、旅の情緒を楽しまれる人もいますよ。道の駅効果とでもいうんでしょうか、町民以外の利用が格段に増えました」と話すのは足寄町観光物産協会の五十嵐健二事務局長。

というのも、これまでは「ふるさと銀河線」の乗降客と、十勝バスや拓殖バスの待合室も兼ねているのでバスに乗る人たちの利用が中心で、ターミナルの要素が強かったからです。

また、複合的な施設として建設されているのも大



ラッピング電車と切符



展望台から見た足寄市街

きな特色で、2階には固定席153席、移動席45席のほか舞台や音響、照明設備などを整えたホールがあります。足寄出身の歌手、松山千春さんのギャラリーもありステージ衣装や愛用のギター、ゴールドディスクなどが展示され、千春ファンなら何度も足を運びたくなるような内容です。展望台に昇れば、360度のパノラマで足寄の市街地が見渡せます。喫茶室を備え、外壁には大時計と美しい音色を響かせるカリヨンがあり、夜間は星のデザインを散らした外観がライトアップさせ街並みに潤いを与えています。

ラワンブキのソフトクリームなど、売れ筋はラワンブキの関連商品

面積日本一を謳う足寄町には、もう一つの日本一があります。それは高さ3m、直径10cmにもなる大きなラワンブキで、足寄町でしか採れない特産品です。

1階の観光物産館「ふるさとショップ銀河」ではラワンブキ関連の商品が良く売れていて、一番人気は煮付けなどの料理にすぐ使えるラワンブキの水煮。地元のお母さんたちの力作、ラワンブキの三升漬けはピリっとした辛さとフキの歯ごたえが絶妙です。ビン詰めになった炊き込みご飯の素は手軽さがウケているようで、珍しいところではラワンブキの繊維を入れた羊羹なんていうものもあります。

五十嵐さんのおすすめは「新製品のラワンブキのソフトクリームです。フキならではの緑色と香りが

楽しめ、足寄に来たらぜひ食べていただきたいです」とピーアール。ほかでは絶対に食べられません。

とにかく大人の背よりも大きくなるラワンブキですが、大きくても固さがなく食物繊維をたっぷり含み栄養価にも恵まれています。ひと昔前は、6月から7月にかけて家族で採りに行き、塩漬けにして冬の保存食として利用してきたといいます。足寄の人たちにとっては欠かせない食材でした。多彩な商品展開がされるようになった現在は乱獲を避け、上手に保護しながら出荷しています。

また、グルメ、宿泊、見所の案内も観光物産館の担当。足寄町役場企画観光課企画振興係の佐野健士さん「オンネトーは季節を問わず、足を運んでいただきたい場所です。周囲2.5kmの小さな湖ですが、ブルー、エメラルドグリーンなど天候や見る角度によって表情を変えとても神秘的。別名五色沼とも呼ばれています。足寄にいらした記念をお探しなら、足型工房で足型を取ってみたいはいかがでしょう。10～15分程度で取れ、後日敷設され、足型証明書も発行されます。体験メニューもある足寄動物化石博物館も見ごたえ十分です。ぜひ情報を得てください」と話します。

運が良ければ、松本零士さんによるラッピング電車を見ることもできます。足寄の隣には愛冠(あいかっぷ)という地名があり、駅窓口で愛冠行きのキップを買うのが「愛のカップル」に密やかな人気とか。ちなみに愛冠の駅舎は王冠の形をしているそうです。

年に2回、春(6月下旬ごろ)と秋(10月の中旬ごろ)には物産市を開催し、ラワンブキや地元の農産物をはじめ、手作りのフキを使った蒸しまんじゅうが並べられたりするそうです。詳しい日程は町観光物産協会(TEL 01562-5-6131 ホームページ <http://www.ashoro-kanko.jp/>)まで。

「オープンしてまだ日も浅いので試行錯誤の連続ですが、みなさんに親しまれる、足寄に足を寄せてよかった(笑)と思われる道の駅にしていきたいです」と五十嵐事務局長はユーモアを交えて語ってくれました。



「松山千春」ギャラリー



観光物産館「ふるさとショップ銀河」